

歯内療法における 臨床思考の技術

▼詳しい情報はこちら

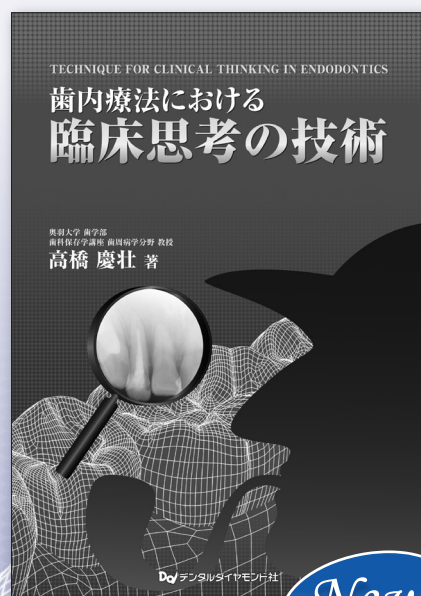


[著] 高橋慶壮 (奥羽大学教授)

歯内療法は、謎解き・ミステリー

日常臨床で歯内療法は避けて通れない。しかし、失敗が多いのも事実。失敗の原因は、手技の研鑽不足以外に「未知」、「無知」、「不注意」、「誤判断」、「手順の不遵守」、「調査・検討の不足」である。本書では失敗の少ない医療を実践する為に、謎解きの手法＝「臨床思考(臨床推論)」の方法論を丁寧に解説。後半では、症例を交え解説を行っている。「どんな手を打つか?」日常臨床でよりよく考えるための実践方法を本書の中からつかんでほしい。

A4判・180頁・オールカラー 本体12,000円＋税



New

CONTENTS

第I章 現代歯内療法学における基本概念

- 1 現代歯内療法学のスタート
- 2 歯内療法(歯科臨床)を理解するためのキーワード 他

第II章 歯内療法における「不確実性」と「リスク評価」

- 1 治療における「リスク」と「不確実性」
- 2 歯内療法におけるリスク評価とリスク管理 他

第III章 臨床思考(臨床推論)

- 1 臨床推論は理論を構築するための不可欠のスキル
- 2 三大推論—演繹、帰納およびアブダクション 他

第IV章 初診時診査

- 1 初診時診査の要点
- 2 診査—患者理解のスタート:医療面接 他

第V章 診断

- 1 オッカムのかみそりとヒツカムの格言
- 2 診断の不確実性 他

第VI章 症例に見る病態の理解と治療の実際

- 【症例VI-1】
歯周・歯内複合病変
—不良な根管治療と穿孔が原因となった症例
- 【症例VI-2】
根管拡大と根管充填が不十分なため
10歯の再根管治療を行った症例 他

第VII章 考える臨床 = 臨床思考の提案

- 1 常に原因追究に基づいた診断と治療の実践を
- 2 Morton Amsterdamの名言 他